

# 兵庫県立病院薬剤部 教育研修委員会だより

第17刊

令和2年3月

編集発行：

兵庫県立病院薬剤部長会議

教育研修委員会

## 担当部長からのメッセージ

教育研修委員会では、県立病院薬剤師の教育・育成のために、毎年、全体研修・階層別研修・相互利用・専門教育研修等を企画運営するとともに、総合型薬剤師育成ラダーを用いたCPDに沿った生涯研修制度を取り入れ、職員が積極的に自己研鑽に励むよう、その進行管理、指導を行っています。今年度も、各施設での相互利用の研修をはじめ、多くの充実した研修が実施され、業務改善や個人のモチベーションアップに繋げることができました。

今後も県立病院薬剤師の資質向上を継続的に図るべく、教育研修委員が中心となって、効果的な研修会等を企画しますのでよろしくお願いいたします。

兵庫県立病院薬剤部長会議 教育研修委員会 担当部長

加古川医療センター 薬剤部長 兵頭 純子

淡路医療センター 薬剤部長 上田 里恵

## 令和元年度教育研修委員会の取り組み

- 1 県立病院薬剤師の教育育成に関する指針に基づく研修の実施  
全職員を対象とした「総合型薬剤師育成ラダーを用いたCPDに沿った生涯研修」について進捗状況を確認した。
- 2 県立病院薬剤師研修の企画・運営
  - (1) 令和元年度第1回県立病院薬剤師研修（全体研修）  
令和元年6月1日（土）開催 同研修会の企画・運営
  - (2) 令和元年度第2回県立病院薬剤師研修（階層別研修：職員（前期）対象）  
令和元年11月30日（土）開催 同研修会の企画・運営
  - (3) 薬剤師専門教育研修（がん・緩和領域）  
令和元年11月22日（金）開催 同研修会の企画・運営
  - (4) 薬剤師専門教育研修（感染制御領域）  
令和元年12月13日（金）開催 同研修会の企画・運営
  - (5) 令和2年度第1回県立病院薬剤師研修（全体研修）  
令和2年6月6日（土）開催予定 同研修会の内容等について企画
- 3 県立病院の相互利用の活性化
  - ・複数の施設が参加する合同研修を企画・実施した。
  - ・各病院の設備、業務内容及び特徴的な取り組みなどを「相互利用のための各県立病院情報」として更新し、県立病院薬剤部ホームページ（会員用）に掲載した。
  - ・専門教育研修（がん・緩和領域、感染制御領域）を県立病院で実施した。
  - ・こころの医療センターで精神領域、尼崎総合医療センターで救急・集中治療領域について、病棟薬剤業務の相互利用合同研修を実施した。
- 4 薬剤部長会議「新人研修標準マニュアル」「県立病院薬剤師の教育育成に関する指針」の改訂  
薬剤部長会議で過年度作成した同マニュアルについて、兵庫県立病院事業の概要等、現状に沿った内容に改訂した。
- 5 教育研修委員会だよりの発行  
今年度はトピックスとして、「丹波医療センター開院について～丹波医療圏の中核病院を目指して～」を掲載し、教育研修委員会だより第17刊を発行した。

## 丹波医療センター開院について～丹波医療圏の中核病院を目指して～

兵庫県立丹波医療センター 田畑 佳祐

兵庫県立柏原病院と柏原赤十字病院が統合再編し令和元年7月1日に、新たに兵庫県立丹波医療センターと丹波市健診センター“ミルネ”が開院・開所しました。

丹波医療センターは27診療科を標榜し、急性期204床、地域包括ケア45床、回復期リハビリテーション45床、緩和ケア22床、感染症4床の320床を有しています。また、新たに人工透析を15床、クリーンルームを2室新設し、救急は初療室3室と診察室3室をもち、屋上にはヘリポートを設置し、施設、設備が充実し重症患者の積極的な受け入れを行っています。丹波医療圏の中核病院として、地域のニーズに沿った急性期から回復期および終末期までの幅広い医療の提供を目指しています。

薬剤部では患者に安心して適切な薬物療法を実施するため、医薬品の適正使用の推進、患者サービスの向上、チーム医療の充実を3本柱として医薬品の有効性と安全性を確保し、適正な薬物療法を推進しています。

最先端の高度な調剤支援システムを種々導入することで、より正確かつ迅速な調剤業務や抗がん剤調製等が可能になるとともに、システムによる処方チェックの充実による安全で安心な医薬品の提供の推進を図ることができました。

9月からは病棟業務実施加算の算定を開始し、病棟に専任薬剤師を配置することで、薬剤管理指導業務だけでなく、退院調整カンファレンスやせん妄ラウンドなど様々な場面での薬学的介入が可能となりました。特に抗菌薬適正使用支援チームでは、薬剤師が中心となり、抗菌薬の適正使用推進に努めています。

今後とも、安心して適切な薬物療法を提供できるよう日々研鑽を重ねていきます。





## 資格取得者からのメッセージ

### 認定・専門取得にチャレンジしてみませんか？

日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師  
淡路医療センター 岡田 悠加

#### 1. 外来がん治療認定薬剤師の受験資格

外来がん治療認定薬剤師は外来がん治療や、地域がん医療において活躍できる薬剤師を養成することを目的に2014年にスタートした一般社団法人日本臨床腫瘍薬学会が認定する資格で、がん患者指導管理料を算定できます。認定要件は①薬剤師実務経験3年以上、②学会が認めている認定薬剤師を取得、③講習会受講、④外来がん患者のサポート10症例、⑤認定試験です。

#### 2. 外来がん治療認定薬剤師の業務内容

医師による診断・診察を薬学的に支援することや、日々進歩を遂げているがん治療の最新情報を収集しながら、がん薬物療法のスペシャリストとして情報提供を行うのが主な業務です。癌治療は副作用が多様かつ投与方法や服用の仕方が複雑になってきており、制吐剤などの支持療法薬の深い知識だけでなく、患者に最適な支持療法を見極めることなどが求められています。患者ごとに問題点を明確化してフィードバックを行い医師のがん診療を支援しています。

#### 3. 外来がん治療認定薬剤師を目指したきっかけ

外来がん治療認定薬剤師を目指したきっかけは、がん治療を受けている患者さんと接する中で、薬剤師として支援するための知識・技術不足を痛感したためです。がん領域の専門性を高めて患者さんをフォローする中で相談してもらえる存在になりたいと思いました。

#### 4. 「外来がん治療認定薬剤師」の資格を取得してからと今後について

認定を取得する過程で得た知識や疑問点を調べる方法、他の医療スタッフとの連携などは現在でも欠かすことはできません。資格取得はあくまで通過点であり、信頼関係を築きチーム一丸となり継続的に患者さんをサポートするためにも知識の更新は必須です。資格取得後は、支持療法の提案・患者さんへの説明や情報提供などの場面で自信を持って患者さんに寄り添ったケアやアドバイスが積極的にでき、相談してもらえることも多くなり、患者さんの日常生活に直結した環境での業務にやりがいを感じています。

興味のある分野を極め、チーム医療を発展させていくきっかけとして取得を目指してみませんか？



お薬相談室での指導風景

# 専門・認定薬剤師等の取得状

(令和 2年 1月 現在 )

名称・認定団体等		尼崎総合 医療センター	西宮病院	加古川 医療センター	丹波医療センター	淡路 医療センター	ひょうごこころの 医療センター	こども病院	がんセンター	姫路循環器病 センター	粒子線 医療センター	合計
がん指導薬剤師	日本医療薬学会								1			1
がん専門薬剤師	日本医療薬学会								1			1
がん薬物療法認定薬剤師	日本病院薬剤師会							1				1
感染制御認定薬剤師	日本病院薬剤師会	2						2		1		5
日本糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	1			2	2		1				6
栄養ケア・チーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会	2	3			1		1	2	3	1	13
緩和薬物療法認定薬剤師	日本緩和医療薬学会	1		1		1						3
日本医療薬学会認定薬剤師	日本医療薬学会		2					1		1		4
日病薬病院薬学認定薬剤師	日本病院薬剤師会	8	3	4	2	4	1	4	5	1	1	33
生涯研修履修認定薬剤師 (5年)	日本病院薬剤師会	8	2	3	3	3	2	5	4	2		32
研修認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	3	1	3				1	3			11
認定実務実習指導薬剤師	日本薬剤師研修センター	9	6	7	4	7	1	6	8	3		51
日病薬認定指導薬剤師	日本病院薬剤師会							2	2			4
小児薬物療法認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	3						1				4
漢方薬・生薬認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	1										1
救急認定薬剤師	日本臨床救急医学会	2	1		1							4
抗菌化学療法認定薬剤師	日本化学療法学会	1		1				2	2			6
日本 DMAT 隊員	厚生労働省医政局長	3	1	2		1		1		2		10
スポーツファーマシスト	日本アンチ・ドレッシング機構			2	1						1	4
外来がん治療認定薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会	1	1	2		1		1	2			8
NST専門療法士実地修練	日本静脈経腸栄養学会教育施設	4	4	4	3	4	2	1	2	3	1	28
骨粗鬆症マネージャー	日本骨粗鬆症学会			1		2						3
禁煙指導認定薬剤師	兵庫県薬剤師学会			1								1
周術期管理チーム認定薬剤師	日本麻酔科学会	3										3
合計		52	24	31	16	26	6	30	32	16	4	237

## 書籍出版・学会発表

病院名： (尼) …尼崎総合医療センター (西) …西宮病院 (加) …加古川医療センター  
 (丹) …丹波医療センター (淡) …淡路医療センター (こころ) …ひょうごこころの医療センター  
 (こども) …こども病院 (が) …がんセンター (姫) …姫路循環器病センター  
 (粒) …粒子線医療センター ※ …レジデント

## 書籍等出版物（上段：タイトル・著者／下段：出版社等）

※メーカー作成の出版物（パンフレット、小冊子）を除く

期間：平成30年12月～令和元年11月

タイトル	(病院名) 著者
雑誌名・出版社等	
逸脱症例から学ぶがん薬物療法 標準治療の実践！	(が) 渡邊小百合
月刊薬事 2019年7月増刊号(vol. 61 No. 10 1779-1782) 株式会社じほう	

## 学会発表

期間：令和元年度発表分（発表予定を含む）

●第62回 日本糖尿病学会年次学術集会 令和元年5月23日～25日	
当院に糖尿病ケトアシドーシス(DKA)で救急搬送された患者の要因について	(淡) 小林真弓
●第22回 日本臨床救急医学会総会・学術集会 令和元年5月30日～6月1日	
尼崎総合医療センター冠疾患集中治療室における中心静脈栄養の実態調査	(尼) 梶田祐三子
血糖降下剤等を誤飲した小児に対して薬学的に介入した一例	(淡) 猪股浩介
●第13回 日本緩和医療薬学会年会 令和元年5月31日～6月2日	
当院におけるヒドロモルフォンの適正使用に向けた使用状況調査	(尼) 片岡佑貴
●医療薬学フォーラム2019/第27回クリニカルファーマシーシンポジウム 令和元年7月13日～14日	
当院の肝細胞癌に対するレンバチニブ療法における有害事象の実態調査について	(西) 近藤理絵
●第23回 日本渡航医学学会学術集会 令和元年7月14日～15日	
ウガンダにおけるマールブルグ病発生時の現地医療施設の取り組み	(尼) 岡本芙美
●第120回 近畿救急医学研究会(日本救急医学会 近畿地方会) 令和元年7月20日	
わたしの流儀～救急・集中治療領域ではたらく薬剤師～	(尼) 橋本貴史
●第17回 兵庫県立病院学会 令和元年9月7日	
尼崎総合医療センターにおける手術室サテライト業務について	(尼) 奥貞佳世子
尼崎総合医療センターにおける医薬品情報室業務について	(尼) 岡野新
クリニカルパスを利用した病棟薬剤業務の効率化および適正な薬剤管理	(尼) 源侑馬
N-POP(Nishinomiya support service for Prevention of secondary Osteoporotic Proximal hip fracture)における薬剤師の役割とポリファーマシーへの取組	(西) 河原香織
肝癌治療分子標的薬の副作用マネジメントチームの手足症候群に対する取組みについて	(西) 太田あづさ
カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(GPE)検出症例に対する AST 活動に関する報告	(西) 末森千加子

お薬手帳へのCKDシール貼付の取組み — 開始後の評価について —	(西) 大島沙紀
血液培養ラウンドが黄色ブドウ球菌およびカンジダ菌血症の診療プロセス適正化に及ぼす効果	(加) 土井本和久
胃がん周術期におけるアミノ酸・糖含有製剤と脂肪乳剤の投与の安全性に関する調査	(加) 鹿島彩絵
西日本豪雨災害におけるDMAT活動報告	(加) 大城里紗
CPD(生涯職能開発)に沿った生涯研修導入後の評価 ～総合型薬剤師及び専門・認定薬剤師の育成推進に向けて～	(加) 柴田博子
淡路医療センターにおけるASTの活動	(淡) 岡松雅樹
閉鎖式薬物移送システム(CSTD)の全面導入に関する使用状況調査の取組み	(淡) 山口泰大
当センターにおける抗精神病薬服用患者の心電図検査実施状況	(こころ) 東佑輔
院内感染対策におけるASTの役割	(こども) 石田達彦
薬剤情報ネットワークシステムによる情報共有及び発信の有用性について	(こども) 寺崎展幸
SSI予防抗菌薬使用の手引き及び経口第三セフェム系抗菌薬許可制導入によるSSI予防に対する有用性の評価	(こども) 渡邊稜子
注射用ホスアプレピタントに起因する注射部位障害の軽減対策	(が) 渡邊小百合
対策立案シート活用によるヒヤリ・ハット防止対策の評価	(姫) 合田泰志
経口第3世代セフェム系抗菌薬の使用量削減に向けた取組み	(姫) 沖元秀都
当院における経口抗菌薬の使用状況調査	(姫) 中村亮博
●第8回日本くすりと糖尿病学会学術集会 令和元9月7日～8日	
薬剤師による糖尿病教育入院の取組み～「糖尿病お薬クイズ」導入後の効果～	(加) 千保円
●第23回日本心不全学会学術集会 令和元年10月4日～6日	
心不全治療における薬剤チェックリストの有用性	(淡) 山口美沙
●第21回日本骨粗鬆症学会 令和元年10月11日～13日	
N-POP(Nishinomiya support service of Prevention for secondary Osteoporotic Proximal hip fracture)における病院薬剤師の役割について	(西) 河原香織
●第52回日本薬剤師会学術大会 2019年10月13日～14日	
トレーシングレポートの活用における適正な薬物治療の推進について	(西) ※中島弥生
退院時カンファレンスにおける病院薬剤師の役割と薬薬連携	(西) ※松下翠
薬薬連携における退院時共同指導の重要性について	(こども) 寺崎展幸
●第58回全国自治体病院学会 令和元年10月24日～25日	
当院における抗がん剤曝露防止のための取組み	(加) 大谷祐子
当院におけるデノスマブ注使用時の血清Ca値測定と低Ca血症対策薬併用に関する調査 —デノスマブ注の安全使用のための取組み—	(加) 福田朝恵
大腿骨近位部骨折患者における骨粗鬆症治療薬の使用実態調査	(淡) 有馬典子
当センターにおける閉鎖式薬物移送システム導入への取組み	(姫) 平山香澄
●第57回 日本癌治療学会学術集会 令和元年10月24日～26日	
ブリナツモマブを安全に投与するためのレジメン登録	(尼) 大原沙織
●第29回 日本医療薬学会年会 令和元年11月2日～4日	
HIV感染品胎妊婦の母子感染予防にジドブジン注射剤を使用した経験	(尼) 門倉史枝
HIV合併品胎妊婦症例の経験	(尼) 二星知紗
肝癌治療分子標的薬の副作用マネジメントチームにおける手足症候群に対する当院の取組みについて	(西) 田中智啓



当院における大腿骨近位部骨折再骨折予防剤 <sup>®</sup> -サービスへの薬剤師の関わりについて	(西) 富樫博敬
高齢者への適正な薬物療法推進への取り組み ～せん妄・認知症行動に対する薬剤調整の重要性を考える～	(加) 柴田博子
整形外科病棟における高齢患者への睡眠薬の使用状況調査 ～術後せん妄を回避する薬物療法推進に向けて～	(加) 楠本祥子
当院薬剤部におけるヒヤリ・ハット再発防止の取り組み	(淡) 佐倉小百合
●第 89 回日本感染症学会西日本地方会学術集会 令和元年 11 月 7 日～9 日	
カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌 (GPE) 検出症例に対する AST 活動に関する報告	(西) 末森千加子
感染症専門医のいない当院における AST 活動報告	(西) 尼谷こゆは
●第 61 回 小児血液・がん学会 令和元年 11 月 14 日～16 日	
Medication counseling and prophylactic intervention for chemotherapy-induced neuropathy associated with pediatric cancer treatment	(尼) 永井浩章
●第 13 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会 令和元年 11 月 15 日～17 日	
お薬手帳への CKD シール貼付の取組み — 開始後の評価について —	(西) 大島沙紀
●第 14 回医療の質・安全学会学術集会 令和元年 11 月 29 日～30 日	
当院における安全で効率的な持参薬管理業務の確立に向けた取り組み	(加) 塩田恵
がん化学療法におけるプレアポイド報告とチェックシートの作成を含めた安全対策の構築	(淡) 陣田剛志
●第 35 回日本環境感染学会総会・学術集会 令和 2 年 2 月 14 日～15 日	
当院における経口第 3 世代セフェムの使用量の推移について	(淡) 藤井恵太
●第 5 回日本心臓リハビリテーション学会近畿支部地方会 令和 2 年 2 月 15 日	
心臓リハビリテーション患者の外来服薬指導によるフォローについて	(姫) 香田小百合
●第 41 回日本病院薬剤師会 近畿学術大会 令和 2 年 2 月 15 日～16 日	
乳がん患者 EC 療法におけるアプレピタントとオランザピンの副作用予防効果の比較	(尼) 菅近晴美
糖尿病患者の薬識向上にむけた調査	(尼) 安居浩美
兵庫県立尼崎総合医療センターにおける麻薬服薬情報提供書について	(尼) 藪内悠希
小児科病棟における病棟薬剤師業務 ～安全な薬物治療の提供に寄与するために～	(尼) ※花原大志
持参薬のメトトレキサートによる汎血球減少の重篤化回避に薬剤師が寄与した一例	(西) 河原香織
深部静脈血栓症 (DVT) の発症抑制目的で使用するエドキサバンに対する薬剤師の関与について	(加) 百濟圭祐
当院における持効型・超速効型配合インスリン製剤の使用状況調査 ～ライゾデグ <sup>®</sup> 配合注の有用性の検討～	(加) 田中拓可
当院における de novo B 型肝炎予防のための HBs 抗原のスクリーニング調査	(加) 岡本千尋
乳がん化学療法における制吐対策 ～ddEC 療法での悪心・嘔吐出現調査～	(加) 谷川千明
当院の心不全患者に対するトルパプタンの使用実態調査	(加) ※大垣徳深
淡路医療センターにおける睡眠薬使用実態調査	(淡) 田中将太
SGLT2 阻害薬服用患者の年代別副作用調査	(淡) ※松川礼奈
当院における薬剤乳汁移行性一覧表の作成と活用について	(こども) ※須藤由菜
当院における小児在宅薬物治療支援の取組み	(こども) ※八幡菜由
当院におけるパルボシクリブの好中球減少症発現状況と用量調節について	(が) 倉本舞
当院における静脈血栓塞栓症 (VTE) に対する	(が) 福島瑛玲奈

エドキサバンとリバーロキサバンの使用状況調査	
当院における入院支援センター持参薬業務について	(姫) 團優子
排尿ケアチームにおける薬剤師の関わり	(姫) 高月真由美
●第25回 日本災害医学会総会・学術集会 令和2年2月20日～22日	
兵庫県ロジスティクス体制構築における情報に関する取り組み	(加) 大城里紗
●第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会 令和2年2月27日～28日	
がん終末期における輸液実態調査	(淡) 岡田悠加
●第84回日本循環器学会学術集会 令和2年3月13～15日	
心不全チームと緩和ケアチーム連携後の末期心不全患者における呼吸困難に対する モルヒネの使用実態調査	(尼) 木下紗江
PCPS症例における排便コントロールに対する大建中湯の有用性	(尼) ※辻中海斗
慢性心不全症例におけるトルバプタン長期使用の安全性と有効性の検討	(姫) 前田真由子
●日本臨床腫瘍薬学会 学術大会 2020 2020年3月21日～22日	
当院におけるアベマシクリブの有害事象発現状況および患者指導ツールの作成	(が) 渡邊小百合



# 令和元年度 県立病院薬剤師研修報告

全体研修（全職員対象）：令和元年 6 月 1 日（土）

兵庫県私学会館

参加 144 名

## ●ポリファーマシーについてかんがえてみた

神戸大学医学部附属病院 総合内科医 森寛行

医療の目的とは、患者さんを幸せにすることで、全てはその目的の為の手段であるということを確認することから講義が始まった。講師が実際に経験された症例から、ポリファーマシーにつながる医師の心理について話があった。ポリファーマシーとなる原因として、他からの処方・病気に無関心であること、薬を止めて何かあったらどうしようという怖れ・不安、短時間で多くの患者を診察するための多忙、症状を訴える患者に対するの善意や親切といったことを挙げていた。また、ポリファーマシーと死亡率にも相関関係があり、処方数が増えると不適切使用が増え、質が下がりがちであること等をデータで示された。しかし処方数が多くても最適化された結果であれば、それは適切であると考えられる必要がある。生命予後改善、症状の緩和等何が患者の幸せかを患者とともに考えられるよう薬剤師として努めていきたい。



## ●平成 30 年西日本豪雨災害における加古川 DMAT 活動報告

加古川医療センター DMAT 大城里紗

## ●救護班活動報告

こども病院 寺崎展幸

## ●薬剤師としての災害医療における備えと実際の対応

神戸赤十字病院 薬剤部 安藤和佳子

県立病院の薬剤師が、実際に DMAT として活動を行った平成 30 年西日本豪雨災害及び救護班として活動を行った東日本大震災、熊本地震について報告があった。これらの活動での薬剤師の役割や実際にどのようなことを現場で行ったか、薬剤師としてできることはなにかということに関し、具体的な発表であった。災害時においては同行する医師の専門外の疾患を有する患者も少なくなく、薬剤の選択等薬剤師としての知識や技能を最大限に活かすことができることを認識できた。また、安藤先生からは、阪神・淡路大震災後の教訓から始まった取り組みについて、詳細な講義があった。災害時では、需要と資源のアンバランスがあり、薬剤師として医薬品のアンバランス



を最小限にする必要がある。有事の際の失敗原因で最も多いのは、情報伝達の不備である。そのため、今までの災害時の教訓をもとに、平時から災害医薬品の標準化やセット化を行うなど備えをしておき、災害時には、多方面と連携を取りながら、その時その時に必要な医薬品管理を行えるよう訓練を積んでいきたい。

## 階層別研修（職員 2 年目、3 年目対象）

： 令和元年 11 月 30 日 （土）

兵庫県中央労働センター

参加 29 名

### ● 点滴静脈注射に使われる医療器材と投与の実際

テルモ株式会社神戸支店ホスピタル事業部  
医療機器担当 チームリーダー 篠田 貴史  
学術担当 藤本 小織

研修前半は静脈注射に使用する医療器材の種類とその特徴に関する講義の後、器材を使った実習が行われた。薬剤によってはチューブ素材への影響やフィルターの透過性を考慮する必要がある。例えば、ニトログリセリン注はチューブに含まれる可塑剤と相互作用を起こすことで材質そのものに溶けこんでしまう。そのため、点滴時は PVC フリーのチューブを使用しなければならない。薬剤の特徴に合った器材を適切に選択する必要がある。

後半は中心静脈投与、配合変化に関する講義の後、一症例についてライン設計を行った。ライン設計の際は昇圧系・降圧系の振り分けや流量を考慮する必要がある。また、必要時に薬剤が投与できるようルートを確認しておくことも重要である。



### ● 薬剤師に必要なリスクマネジメント

リスク管理委員会 委員長 姫路循環器病センター  
薬剤部次長 合田 泰志

本研修では、日本における医療安全の背景・施策、県立病院及び薬剤部の取り組み等について学んだ。2000 年以降、医療事故の見方・考え方が大きく変化し、薬剤師の役割と責任も大きくなり、今後は一人一人が医療人・薬剤師としての自覚を持つことが重要となっている。

医療事故防止の対策として、まず、「音読照合の徹底」があり、多くの調剤ミスを防ぐことができるが、「PDA の使用」も同様に対策としてあげられ取り間違いを防ぐことが可能である。しかし実際には多忙な状況で PDA を使用せずに調剤を終えてしまうことや、機能的なシステムトラブル等問題が多い。自施設のシステムを理解し、また、完璧なものではないことを踏まえて、これまで培った知識や経験を活かして医療システムを活用する必要がある。

本研修で学んだことを今後の日常業務に活かしたい。



## ●腎機能低下時の薬物療法について

神戸大学医学部附属病院 薬剤部 神戸大学大学院医学研究科  
薬剤学分野 特命講師 腎臓病薬物療法専門薬剤師 山本 和宏

本講義では、腎機能推算式の種類や特徴、特殊患者における腎機能評価のポイントについて学び、症例演習を通して腎機能低下時の薬物療法の考え方を身につけることができた。

高齢患者では、Scr 値のみではなくアルブミン値やBMI も腎機能評価の判断材料とする。また、CLcr の代替指標として実測 CLcr やシスタチンCによる eGFR<sub>cys</sub> が使える場合がある。実際に投与量の調節に活用する際は、規定量が固定用量であれば CLcr、体重当たりの投与量であれば補正 eGFR を用いる。また、症例演習では、Giusti-Hayton 法を用いて投与補正係数を計算し、腎機能に合わせた投与设计の方法を学んだ。

この研修で学んだ知識や考え方を実臨床で活用し、より深く薬物療法に関われるよう努めていきたい。



## 薬剤師専門研修 (がん・緩和領域)

: 令和元年 11 月 22 日 (金)

がんセンター

参加 10 名

本研修では、①医師による講義（乳がんの最新治療）②薬剤師による講義、症例検討（乳がん患者を中心にした薬学的管理について）、（がん患者の症状緩和を目的とした薬物療法について）が実施された。

①乳がんの薬物療法の治療変遷から今後のがんゲノム医療の考え方について理解が深まった。

②乳がんについて再発・転移における治療アルゴリズムから各使用薬剤の特徴・副作用を知ることが出来た。症例検討では、妊孕性温存など患者背景を考慮した治療選択の重要性を学び、Dose-Dense 治療によるFNへの対応等を検討した。

がん患者の症状緩和について、各オピオイド薬剤の特徴と患者背景を考慮した選択の必要性を学んだ。症例検討では、全人的苦痛を把握した薬剤師の介入について活発な議論が行われた。

認定薬剤師の認定要件等押さえておくべきポイントについて講義も行われ資格取得への意識を高めることが出来た。

本研修で学んだ知識を活かし、職員への情報共有も含めて質の高い抗がん剤治療を提供出来るよう努めていきたい。





## 薬剤師専門研修（感染制御・救命救急領域）

：令和元年12月13日（金）

西宮病院

参加 10名



薬剤師専門教育研修（感染領域）では、①グラム染色から見る細菌と感染症について②入院患者における感染症治療③チームで行う感染対策・治療の実践④感染制御領域における資格取得に必要な知識と認定制度の講義があった。研修①では細菌検査報告書について、記載されている内容と使用されるグラム染色や薬剤感受性試験がどのようなものなのか学ぶことができた。

研修②では感染症治療の基本的な流れや、抗菌薬治療を行う際にガイドラインを参考とする場合は、ガイドラインの作成背景を考慮し目の前の患者に反映できるか判断する必要があることを学んだ。また、症例検討を行い、疾患の診断、起病菌の推定、抗菌薬の選択を行い、感染症治療の流れを実践することができた。

研修③では、AST・ICTを取り巻く環境や所属する薬剤師に求められる役割を学んだ。

研修④では、資格を取得する際の注意点や早めの準備が必要であることを学んだ。

今回の研修で学んだことを今後の業務で活かしていきたい。

## 令和元年度 県立病院相互利用の状況

実施日	内容	実施施設	参加人数
10月3日	集中治療室での業務	尼崎総合医療センター	2名
10月8日	認知症・せん妄ラウンド	尼崎総合医療センター	4名
10月8日	病棟定数配置薬（要管理薬品）の管理	淡路医療センター	1名
10月9日	緩和ケアチームラウンド	尼崎総合医療センター	1名
10月10日	業務全般	丹波医療センター	3名
10月24日	外来化学療法患者への服薬指導	西宮病院	1名
10月24日	病棟薬剤業務（精神疾患領域）	こころの医療センター	6名
10月29日	心不全カンファレンス	尼崎総合医療センター	1名
10月29日	腎臓病教室	西宮病院	1名
10月29日	外来化学療法患者への服薬指導、外来麻薬指導	がんセンター	2名
10月29日	レジメント管理業務	がんセンター	2名
10月30日	AST業務	こども病院	2名
10月31日	NSTラウンド	西宮病院	1名
11月6日	病棟薬剤業務	尼崎総合医療センター	3名
11月20日	（救急・集中治療室領域）		
11月7日	抗菌薬使用適正チーム（AST）	尼崎総合医療センター	3名



# 兵庫県立病院レジデント制度

## 受入実績

(令和 元年 7月現在)

令和元年度受入人数： 19 名 (1年目 11 名、2年目 8 名)

平成 30 年度レジデントのうち兵庫県職員合格者： 1 名

《参考》レジデント受入年次推移

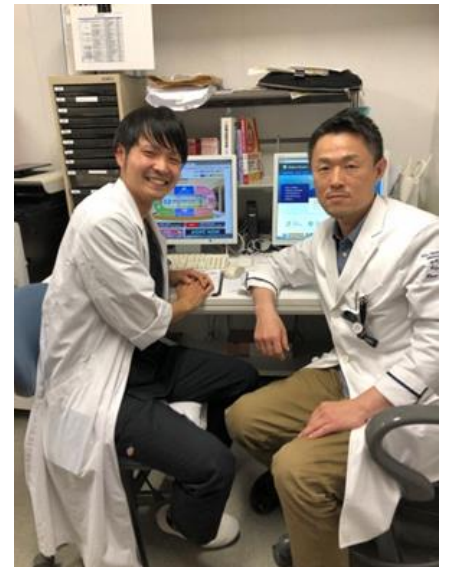
平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
14 名	20 名	19 名	18 名	19 名

## レジデントの声

### 兵庫県立尼崎総合医療センター レジデント (2年目) 辻中 海斗

県立尼崎総合医療センター (以下、当院) レジデント2年目の辻中海斗です。

県立病院レジデント制度の魅力の一つとして、病棟業務を早期から経験できるという点があります。1年目は希望病棟を3ヵ月ごとにローテーションし、2年目は担当病棟として1年間任されます。私は、1年目の6-8月に小児科、9-12月に呼吸器科、1-3月に血液内科の病棟を経験し、現在は集中治療チームの一員としてCCU病棟で業務にあたっています。CCU病棟では、毎朝8時30分から多職種カンファレンスが行われます。そこでは、薬剤師として意見を求められることが多く、治療方針に直接介入することができます。この経験は、日々やりがいへと繋がっています。もう一つの魅力として、1年目でチーム医療を一通り経験することができ、2年目では希望したチームの一員として1年間学べる点です。私が所属しているICT/ASTチームでは週に1度、感染症内科医との広域抗菌薬適正使用ラウンドがあります。ここでは、広域抗菌薬使用症例が適正かどうかを薬剤師の目線で評価し、医師へプレゼンテーションします。難易度の高い症例は、その場で医師とディスカッションし、その結果を主治医へ情報提供します。これらの経験の中で、より良い医療を行うために自己研磨していき、医療人として、人として成長していきたいと思えます。



(感染症内科・松尾医師 (右) とカンファレンスにて)

## 編集後記

令和2年となり、オリンピックの年となりました。メダルを目指す多くの選手が互いに切磋琢磨し力をつけてきたのではないのでしょうか。薬剤師も互いに切磋琢磨することで全体のスキルアップに繋がると思えます。今後も教育研修委員会では各取組を通して職員のレベルアップに貢献していきたいと思えます。

## 令和元年度教育研修委員会



担当部長	兵頭 純子	上田 里恵
委員長	西窪 奈津子	
副委員長	柴田 博子	
委員	橋本 貴史	田畑 佳祐
	田中 将太	開田 郁代
	岡本 沙央理	横田 哲子
	前田 真由子	山本 みどり